
平成21年度予算第一特別委員会質問要旨

○ 局別審査

平成21年3月4日

質問者（質問順）

- 1 飯田 助 尚 委員（民主党）
- 2 加藤 広 人 委員（公明党）
- 3 田中 紳 一 委員（民ヨコ）
- 4 井上 さくら 委員（無所ク）
- 5 中島 文 雄 委員（共産党）
- 6 松本 研 委員（自民党）

港 湾 局

局 別 審 査

1 飯 田 助 尚 委員（民主党）

1 平成21年度予算案について

- (1) 新年度予算編成における基本的な考え方はどうか。
- (2) 重点的に取り組む施策は何か。
- (3) 事業の見直しなど工夫した点は何か。

2 国際競争力の強化について

(1) 横浜港の現況

- ア 平成20年のコンテナ貨物取扱量はどのくらいか。
- イ 取り扱いが大きく減少している品目は何か。
- ウ 国内主要港における景気後退の影響はどうか。

(2) 本牧ふ頭の整備

- ア 本牧ふ頭の現状に対してどう認識しているのか。
- イ 新年度予算での本牧ふ頭に関する取組はどのようなことか。
- ウ 国道357号本牧側出口の増設整備の今後の見通しはどうか。

(3) 京浜三港広域連携事業

- ア 三港連携の趣旨は何か。
- イ 横浜港、東京港、川崎港の特徴をどう捉えているか。
- ウ 三港連携にあたっては、横浜港が主導権を握って進めるべきと考えるが、どのように取り組んでいくのか。

(4) 船会社・荷主企業への誘致活動について

- ア どのような考え方に基づいて誘致活動を進めているのか。
- イ 平成20年度はどのような誘致活動に取り組んだのか。
- ウ これまでの誘致活動に対する効果をどのように考えているのか。

3 安全・安心な港について

(1) 災害対策

- ア 横浜港における港湾施設の大規模地震対策の考え方はどうか。
- イ 耐震強化岸壁の役割や配置の考え方はどうか。
- ウ 耐震強化岸壁の整備状況はどうか。
- エ 耐震強化岸壁の整備を重点的に推進すべきと考えるがどうか。

(2) ヘリポート機能強化事業

- ア みなとみらいヘリポートの現状の課題は何か。
- イ 施設の拡充方策の考え方はどうか。
- ウ 今後の取組はどうか。

4 環境にやさしい港について

- (1) 環境に配慮した港湾の海外での先進的な取組事例はどのようなものか。
- (2) 横浜港でのCO₂削減に向けた取組はどのようなものか。
- (3) 「ゆっくり走ろう！横浜港」の事業目的及び取組の趣旨は何か。
- (4) 本事業での具体的な取組内容はどのようなものか。
- (5) 環境にやさしい港づくりを今後どのように取り組んでいくのか。

1 三港連携による集荷力強化について

- (1) 昨年三月の基本合意以降に実施した施策は何か。
 - (2) 入港料の一元化の具体的内容は何か。
 - (3) 三港のコンテナ船の入港隻数はどのくらいか。また、今回の入港料一元化の対象となるコンテナ船はどの程度と見込んでいるのか。
 - (4) 入港料一元化の影響額はどのくらいか。また、どのような効果を狙ったものなのか。
 - (5) 三港でのセミナー開催状況はどうか。
 - (6) 今後どのようにポートセールスを展開していくのか。
 - (7) 集荷力の強化に向けて、港湾利用コスト低減にどのように取り組むのか。
- (要望) 三港連携を活用しながら、今後とも効果的な施策を展開してもらいたい。

2 開港150周年記念事業について

(1) 象の鼻パーク

- ア 鉄道の転車台を具体的にどのように公開していくのか。
 - イ 明治期の施設の復元や保存以外に象の鼻地区の歴史を紹介するものはあるのか。
 - ウ 現地で象の鼻地区を案内・説明するガイドが必要だと思うがどうか。
 - エ 象の鼻テラスの具体的な活用をどのように計画しているのか。
 - オ 象の鼻パークの集客に向けた今後の取組は何か。
- (要望) 観光バスの周遊ルートの一つとなるよう、乗降場の設置を検討してほしい。

(2) 世界港湾セミナー

- ア 港湾局ではどのような国際協力を行っているのか。
- イ 「世界港湾セミナー」にはアフリカ諸国からも港湾関係者が参加しているが、内容はどのようなものか。

ウ 今回、姉妹港に加え、アフリカ諸国が「世界港湾セミナー」に参加する意義は何か。

エ 今後ともアフリカ諸国をはじめとする途上国への国際協力を、継続的に推進させる必要があると思うがどうか。

3 杉田臨海緑地について

(1) これまでに進めてきた市民協働の内容は何か。

(2) 平成21年度予算額と整備内容は何か。

(3) 多目的広場はどのような使い方を想定しているのか。

(4) 管理・運営についてどのように考えているのか。

(要望) 磯子区に砂浜を取り戻してほしい。

1 ゆっくり走ろう横浜港について

- (1) 参加している団体及び参加事業者数はどのくらいか。
- (2) 啓発キャンペーンやエコドライブ講習会の内容はどのようなものか。
- (3) グリーン経営認証とはどのような制度なのか。また、本市の具体的な奨励内容はどのようなものか。
- (4) どのような効果を期待しているのか。
- (5) 本事業を持続し、実効性を高めていくことが重要と考えるが、港湾局の考えはどうか。

2 埋立事業会計について

- (1) 平成19年度以降に売却した土地はどのくらいあるのか。
- (2) 今後、第2次中期財政プランで処分を予定している土地と面積はどのくらいか。
- (3) 当初の計画どおり土地処分を進めて行くのか。
- (4) 今後の土地処分に向け、どのように工夫して取り組むのか。

3 京浜港共同ビジョンの策定について

- (1) 広域連携を目指す理由は何か。
- (2) 京浜港共同ビジョンとは何か。
- (3) 現在の取組状況と今後の進め方はどうか。
- (4) 京浜三港としてどのような港湾を目指すのか。
- (5) 京浜三港として国へどのような働きかけを行っていくのか。

4 新型インフルエンザ対策について

- (1) 国の「新型インフルエンザ対策ガイドライン」では、水際対策はどのように定めているのか。
- (2) 横浜港の新型インフルエンザの水際対策の取組はどうなっているのか。

(3) 要領の検討状況はどうか。

(4) 平成21年度はどのような取組を行うのか。

1 港湾施設の管理とみなとみらい暫定ヘリポートについて

- (1) ヘリポートが置かれているみなとみらいのふ頭は港湾計画でどのように位置づけられているのか。
- (2) ヘリポートは行政財産の目的外使用ということによいか。
- (3) 行政財産の目的外使用の場合、地方自治法や市の公有財産規則で所定の手続きが必要だと思うがどうか。
- (4) 港湾局は自分の所で管理している施設を勝手に目的外使用していいのか。
- (5) 港湾局が行う場合は、目的外使用であっても許可なく行うことができるというのは、どこに記載があるのか。
- (6) 市の公有財産規則では目的外使用を受けようとするものは申請しなければならないと書いてあるがどうか。
- (7) 使用許可は出していないと聞いているが、使用許可書があるのならば使用許可書を提出してほしい。
- (8) エクセル航空がヘリコプターを離発着させているが、ヘリポートを運用しているのは誰か。
- (9) ヘリポートは市長も局長も「目的外使用である。」と答弁している。ヘリポートを設置し、市が実際に運用していることが目的外使用なのだからその許可はどうしているのか。
- (10) 図面をみてもヘリポートと書いてある。A P E Cのパンフレットに写真も図面もついている。これは何か。
- (11) エクセル航空が許可を受けて、そこに離発着しているということなのか。
- (12) 目的外使用許可を取っていれば原則有料になるので、ヘリポートと称しているものを有料で料金を取らなければならない。Y C A Tの例を当てはめると年間4千万円くらい業者に求めないといけない。告示される前からあったヘリポートだから既得権益として認めているためにこうなったのではないか。

- (13) 国から許可を受ける条件として、エクセル航空は「フェンスをどこに張っているか。安全地帯は明示しているか。」があり、エクセル航空は「人が立ち入りできない。安全地帯がある。」として国に申請書を提出している、だから場を提供していることになるがどうか。
- (14) みなとみらいヘリポートは存在するのかもしれないのか。
- (15) 耐震バースは国が80億円かけて作ったものだが、国との契約内容はどのようなものか。
- (16) 国有の港湾施設である岸壁を目的外使用する場合はどのような手続きが必要になるのか。
- (17) ここは国土交通省の承認は受けているのか。
- (18) ヘリポートの位置は白い枠が国の施設にかかっている。かかっていないとしても、国有の港湾施設（岸壁）なので、エクセル航空が安全地帯としてフェンスを張って国に申請している。これは明らかにもぐりである。もぐりで運用しているのではないか。
- (19) 国の施設をヘリポートの利用に供しているが、これは目的外使用ではないのか。
- (20) 2重3重に法規をすり抜けてきている、正式に告示をしたにもかかわらず、そのまま続けてきたことが問題である。このような財産管理をしてはいけないと思うがどうか。

1 世界的な景気悪化と港湾整備計画について

- (1) 横浜港の港勢の動向と見通しはどうか。
- (2) スーパー中樞港湾育成プログラムにおけるコンテナ貨物取扱量の目標達成の見通しはどうか。今のままでは、2009年(平成21年)は350万TEUの達成は厳しいと思うがどうか。
- (3) 港湾計画の目標年次としている2015年(平成27年)におけるコンテナの取扱量の目標は、将来に渡っても、せいぜい350万個で十分ではないか
- (4) 港湾計画の目標を達成するため、南本牧ふ頭MC-3、4などのコンテナターミナルの整備を前提としているが、厳しい社会経済状況の中、港湾整備計画は凍結・見直しすべきではないか。

2 埋立事業会計について

- (1) 土地処分や企業債償還残高の現状と目標はどうなっているのか。
- (2) CSKホールディングス開発中止の経過、買い戻し等の今後の対応及び埋立事業会計への今後の影響はどうか。
- (3) 土地処分が予想どおりにならない場合が予想される。一般会計からの支援額600億円の他に、さらなる補填は避けなければならないと思うが、どのように対応するつもりか。

1 予算案の編成を終えた感想について

(1) 平成21年度予算案の編成を終えた感想及び評価はどうか。

2 中期計画の推進について

(1) 中期計画に位置付けた港湾局所管事業の予算計上はどうか。

(2) 中期計画に位置付けた港湾局事業をどのように推進していくのか。

3 横浜港が目指すべき方向について

(1) 昨年のコンテナ取扱状況における世界上位港湾と取扱個数はどうか。

(2) 横浜港のコンテナ貨物取扱量の5年間の推移はどうか。

(3) 横浜港にとってのライバル港はどこか。また、その理由は何か。

(4) 横浜港をはじめとする国内主要港が釜山港に流出している貨物を取り戻すためにどのような対策を講じていくべきか。

(5) 中長期的な視点から横浜港が目指すべき方向をどのように考えているのか。

4 三港連携について

(1) ポートオーソリティとはどのような組織なのか。

(2) 三港の一体的な運営によりどのような効果が期待できるのか。また、現段階での検討状況はどうか。

(3) 欧米やアジアの主要港における港湾運営はどのような仕組みで行われているのか。また、最近の動向はどうか。

(4) 三港の一体運営にあたっての検討課題は何か。

(5) 三港連携を推進していく上での金田副市長の思い、決意はどうか。

5 次世代シングルウィンドウシステムについて

- (1) 次世代シングルウィンドウシステムとはどのようなものか。また、その機能はどうか。
- (2) 次世代シングルウィンドウシステムと横浜港港湾情報システムとの関係はどのようなものか。
- (3) 横浜港における電子申請の状況はどうか。また、促進するためにどのような取組を行っているのか。
- (4) 横浜港港湾情報システムはどのような改修を行うのか。
- (5) 次世代シングルウィンドウシステムは横浜港にとってどのようなメリットがあり、何が期待できるのか。

6 南本牧ふ頭の機能強化について

- (1) MC-3 コンテナターミナルの整備状況と今後の見通しはどうか。
- (2) 南本牧ふ頭全体が稼働した場合、現状の周辺道路の課題は何か。
- (3) 南本牧ふ頭の周辺道路とアクセスの改善の必要性をどう考えているのか。また、検討状況はどうか。
- (4) 第5ブロックの廃棄物処分場の整備状況と供用開始の見通しはどうか。
(要望) 海洋汚染等が発生することがないように資源循環局と連携し、十分な対応をお願いしたい。

7 臨港幹線道路について

- (1) 昨年、臨港パークから瑞穂地区区間が開通したことでどのような効果があったのか。
- (2) 現在の交通量はどのくらいか。
- (3) 今後の臨港幹線道路の利用状況をどのように考えているのか。
- (4) 今後の臨港幹線道路の整備にどのように取り組んでいくのか。

8 グリーン物流の推進について

- (1) モーダルシフトの必要性をどのように考えているのか。

- (2) モーダルシフトの取組状況はどうなっているのか。
- (3) はしけによるコンテナ輸送拡大に向けての課題は何か。また、課題解決に向けてどのように取り組んでいくのか。
- (4) 横浜港で行っている鉄道コンテナ輸送の社会実験の内容と取組状況はどうなっているのか。
- (5) モーダルシフト全体の推進の課題は何か。また、今後のどのように取り組んでいくのか。

9 港湾環境の整備について

- (1) 美しい海の実現に向けて当局の取組とNPO法人などの市民活動の状況はどうなっているのか
- (2) 海に直接触れる事が出来る水辺の確保についてどのように考えているのか。また、整備にあたっての課題は何か。
- (3) たくさんの木々で覆われた緑地整備にあたっての問題点は何か。

10 開港150周年関連事業について

- (1) 港湾局では開港150周年記念事業としてどのような取組を行うのか。
- (2) 横浜港の歴史や資産をどのように活かしていくのか。
- (3) 開港150周年記念テーマイベントとどのように連携していくのか。